

「屈斜路湖に旧日本軍の毒ガス弾の投棄を手伝った」・・・ 共産党ならなんとかしてってくれると思つて証言しました

昨年12月21日、釧路市内在住の92才の方から、屈斜路に旧日本軍の毒ガス弾を投棄する手伝いをしたとの証言が寄せられました。「ずっと気になっていたが、共産党に伝えればきちんと

対応してくれる。黙っていたら、闇に葬られてしまうかもしれない」と思い、勇気をもって証言することにしたとのことでした。

今回の新証言は「これ!!」

戦争終結時、この方は14歳で、弟子屈町熊牛原野に家族とともに住んでいました。軍人だった兄19歳が戻ってきたところに、南弟子屈部落会長が訪ねてきて、「計根別飛行場から弟子屈まで荷物を運んでほしい」と依頼されました。この家には、当時、馬と荷車があったので、それで運んでほしいとのことでした。

この件を了解した兄弟が昭和20年10月20日ころに「計根別飛行場の東の角にあった格納庫から、円筒形の



引き揚げられた毒ガス弾 (防衛省提供)

H7年、合田氏の証言

屈斜路に、毒ガス弾を投棄したという証言はこれだけではありません。弟子屈町に住む合田

末広さんが次のような証言をしています。

と念を押したうえで、宿舎にいた作業員14人とともに沖合百数十メートル、水深十数メートルに、プロパンガスボンベのような容器30〜40個を投棄した。(平成7年5月に証言)

昭和20年8月20日、あるいは23日に、計根別飛行場の青木軍曹がトラックで突然、自宅を訪ねてきて「国際法に触れる毒ガス弾がある。他に頼めるところがない。男と見込んで命をもらいに来た」(道新1995.5.25)という証言があった。屈斜路に注ぐオンネシレト川河口の合田さんの作業場に行き、「絶対秘密にしてほしい」

実は、確認されていないものもふくめ、屈斜路への投機話は他にもあります。今回の証言は、合田氏の証言とは時期も本数も異なることから、別ものと思われる。また引き揚げた毒ガス弾の引き揚げ地点、容器の形状が合田氏の証言と異なっています。今回の証言者に、引き揚げた毒ガス弾の写真を見せたところ「間違いない」との証言も得ました。

引き揚げられた26本は、無害化処理されたとはいえ、湖底には未だ引き揚げられていない毒ガス弾がある可能性があります。毒ガス成分は水で中和し毒性はなくなるとされていますが、いずれにしても、この新証言、詳細な調査が必要です。

